



免許外教科担任支援会 (技術・家庭科)

5月18日(水)、吾北中学校に高知県教育センター免許外教科専門支援員の小栗一彦先生をお招きして免許外教科担任支援会を行いました。



情報領域のソフトの使い方を説明する小栗先生(中央)

講師より

教具を見せて、効率的に



教具があると、難しい内容でも生徒は容易に理解できます。理論を20~30分聞いてもよく分かりにくいままですが、仕組みを見れば一瞬です。限られた時間で生徒の理解が深まるので、授業の効率化が図れます。実物を常に見せてあげてください。



木材の変形説明教具

実技教科で成長実感



国語、数学などは「主要教科」と呼ぶ人がいますが、それに対して実技教科は「重要教科」だと思います。重要教科は生活のために必要だったり、人生を豊かにしたりするものです。実技教科で習ったことは生活に役に立ちます。また、知らなかったことがわかり、できなかったことができるようになります。生徒は、自分が成長した実感が持てます。それが実技教科の良さですね。(小栗)



丸のこ盤で溝をつける指導

受講者の感想(抜粋)

小栗先生に、毎時間ごとの細かい授業計画を示していただいたので、3年間で行う具体的な授業像がイメージできました。ワークシートや定期テストもすぐ使えるものをいただきました。

また、木工の機械工具の使用方を安全に使用できるように的確に教えてくれました。すぐ作ることができるものや困難度が高い木工作品を持って来て、作り方をレクチャーしてくれました。

さらに、授業で使える手作りの実物教材の情報や現物を持って来て、ミニ授業をしていただきました。木工分野では釘をどう打つとよいか、構造物の強化の仕組み、エネルギー変換のカムやリンクの仕組みなど、自分が作成すると何時間かかるような教具をいただき、教材研究の時間を短縮でき、業務改善にもつながります。ものづくりを楽しく教えるエッセンスをいただきました。ありがとうございます。



各種
委員会

第1回「いののくらし」テストワーク作成委員会

5月17日（火）、伊野公民館で第1回目の「いののくらし」テストワーク作成委員会を行いました。作成委員の先生方は、今活用しているテストやワークシートをより良いものにするため、改訂作業に協力をしていただきます。

【作成委員】

委員長: 福富 博紀 教頭(枝川小)
濱田 正和 教諭(伊野小)
竹内 実佐恵 教諭(伊野南小)
伊藤 浩昭 指導員(のぞみ教室)
教育研究所事務局



本年度の活動、よろしくお願いします。

研究主専
授業

図画工作科「自分の顔を描こう」神谷小1・2年生(3時間扱い)



授業実践に協力いただいた神谷小学校の皆様、ありがとうございました。

5月10日、神谷小1・2年生児童を対象に、クレパスを使って自分の顔を描く授業をしました。作品を仕上げた後、友だちのいいところや真似したいところを発表することで、成長を実感させたり、学級の安心感を高めたりできると考え、活動を設定しました。



「みんなじょうず!」と鑑賞する児童



鑑賞後は大きな拍手

研究所より

免許外教科担任支援会では、小栗先生からたくさんの指導資料、製作題材の見本、指導教具の提供がありました。しかも、1時間ごとの授業の進め方や板書の資料、技術室の機械の使い方など、丁寧なご指導に感動しました。この支援会を今後も開催したいと考えています。授業づくりでお困りの先生は(困っていないなくても)教育研究所までお気軽にご連絡ください!

いの町教育研究所

TEL:088-893-1922(いの町教育委員会内) 088-893-0255(資料センター)
校務支援メッセージ:小笠原宛